

ガソリン携帯缶

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください!



CGY-20, CGY-10, CRY-20,
CRY-10, CSY-20, CSY-10

この度は YAZAWA ガソリン携帯缶をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

本製品を正しくお使い頂くために、この取扱説明書をよくお読みください。

また、この取扱説明書は読み終わりましても大切に保管していただき、必要に応じてお読み返しください。

重要

ガソリンは揮発性の高い危険物です。 下記の要綱は必ず守ってください。

！警告

重 要

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容、
及び物的（車両等）損害の発生も想定される内容を示しています。

- 各容器の規定容量以上は絶対に入れないで下さい。
- ガソリン携帯缶は、給油口が上向きになるように常に平らな場所に置いてください。
- ガソリン漏れ防止の為、キャップ、エア調整ネジは最後まで確実に締め付けてください。
- ガソリン以外の灯油、軽油、混合油を缶に入れる場合には、必ず付属のシールを缶の目立つ場所に貼り付け、入れ間違いの無いよう十分注意して下さい。又、それ以外の物の使用は、塗装、パッキン材劣化、錆の原因となりますので、使用しないで下さい。
- タンクキャップを外すときは、まずエア調整ネジをゆるめ、缶内の圧力を調整してからタンクキャップを取り外して下さい。タンクキャップを一気に外しますと、ガソリンの噴出し、破裂によるキャップの飛び出し等大変危険です！
- ガソリン携帯缶を携帯、移動した場合には、先ずエア調整ネジをゆるめ、ガソリン携帯缶内の圧力を調整してから、再びエア調整ネジを確実に締めてください。
- タンクキャップ、エア調整ネジ、給油ノズルのパッキンが劣化したり、破損した場合には油漏れによる危険がありますので、部品を交換して下さい。
- ガソリンの長期保管は缶の内部が錆びる原因になります。錆びている場合は使用を中止してください。
- 内容物の有無に関わらず、直射日光が当たる場所、火気の近くなど高温になる場所を避けた安全な場所で保管して下さい。変形や破裂、火災の原因となります。
- ガソリン携帯缶は亜鉛メッキ鋼板を使用しておりますが、使用環境、使用状況等により錆が発生する場合があります。ご使用前に給油口よりガソリン携帯缶内部の状況を確認し、錆等異常が発生している場合は使用しないで下さい。
- ガソリン以外のシンナーや水等の使用は、塗装、パッキン材劣化、錆の原因となりますので、使用を避けてください。
- エンジン等が付いているものに給油するときは、引火する恐があるので、必ずエンジン停止、スイッチを切ってから給油して下さい。

！取扱い注意

取扱い時、注意する内容を示しています。

- ガソリン携帯缶内部に錆止め剤を吹き付けていますが、使用上には問題ありません。
- 空の状態で長期間保管する場合にはエア調整ネジを少しゆるめて下さい。
- ガソリン給油の際、こぼれたガソリンが床等を濡らす恐れもありますので、すぐに拭き取ってください。
- ガソリン携帯缶にガソリンが付着した場合、色落ちする恐れがありますので、すぐに拭き取ってください。
- 缶を給油口が上向きになるよう平らな場所に置いて下さい。
- エア調整ネジをゆるめ、缶内部の圧力を調整してからタンクキャップを取り外して下さい。
- 給油ノズルを確実に取り付け、ノズルを注油する方向に向け、缶をしっかりと持って注油して下さい。
- 使用後はノズルを外してタンクキャップ、エア調整ネジを確実に締めて下さい。
- 使用後は缶を傾け、タンクキャップから漏れのないことを確認して下さい。
- 使用後は給油ノズルをよく乾かしたのち、ガソリン携帯缶天面のノズル止めにはめ込んで下さい。

給油時及び使用後の注意事項

使用する前に準備する物：ウエス、手袋（車載する場合はトレイ、ポリ袋）

①ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。

エンジンストップ



②傾きのない平らな地面に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
！警告
内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。



④給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。ガソリン携帯缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ネジをしっかりと確実にしめてください。

※空の状態で保管する

場合はパッキンの劣化を防ぐ為、少しキャップをゆるめてください。



⑤次回使用する際は、下記の手順を行い使用してください。



中身がある場合

使用前に必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
※圧力を調整時も火気厳禁です。

中身がない場合

給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に損傷、内部に錆・異常等がないか確認してください。劣化部品（特にパッキン等）はお取替えの上ご使用ください。

▲ **ガソリンにも水分は含まれています。**

注意

ガソリンの長期保管は缶の内部が錆・損傷する原因になり、缶が使用できなくなります。

ガソリンも劣化します。

長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を与える恐れがありますので使用しないでください。

少量のガソリンを残さないでください。

ガソリンが気化し、内圧の変化で缶が変形・亀裂する恐れがあります。

ガソリンスタンドでガソリンや軽油を容器で購入する際の注意事項

NG

セルフスタンドでは入れることはできません



OK

従業員のいるスタンドで入れてもらいましょう



ガソリン(軽油など)の保管とその他の注意事項

- ガソリンは、火災の発生危険が極めて高く、火災が発生すると爆発的に延焼拡大する為、ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えてください。
- 軽油は、大量に保管すると、火災の発生危険が高まるとともに、火災が発生すると、大規模な火災となる危険性が高い為、大量保管することは極力控えてください。
- ガソリン(軽油)は引火性(着火性)の高い危険物です。火の気が無く、温度変化のない、直射日光を避けた安全な場所で保管してください。
- 車に燃料を給油する際、携帯缶に保管した燃料から先に給油してください。
- 小出し分けなどして空気(酸素)に触れる機会が多いと、品質の変化が早まりますので、できるだけ一回に補給してください。
- ガソリン(軽油など)を長期間保管すると品質が変化することがあります。
- 品質が変化すると燃料としての役割がなくなりますので、早めに使用してください。
- 携帯缶が空になったからと言って「裸火」は絶対に近付けないでください。
- 車に搭載できるのは、金属製の携帯缶で、22リットル以下です。
- 車に搭載する場合には、携帯缶をしっかりと固定してください。
- 車に搭載した携帯缶から給油する場合、若しくは携帯缶へ給油する場合には、車から携帯缶を地面に降ろし、しっかりと接地したことを確認してから給油してください。(車に搭載したままで給油しますと、静電気の火花放電によりガソリン蒸気に着火する恐れがあります)
- 40ℓ未満のガソリン又は200ℓ未満の軽油を、消防法令の基準に適合した容器で、保管することができます。
- 40ℓ以上200ℓ未満のガソリン又は200ℓ以上1000ℓ未満の軽油を保管する場合は、市町村の火災予防条例により、消防機関に届け出ることが必要となります。
- 200ℓ以上のガソリン又は1000ℓ以上の軽油を保管する場合は消防法により、市町村等の許可が必要です。



ガソリン携帯缶用取替部品

タンクキャップ



C-1

10L給油ノズルセット



C-4

エア調整ネジ



C-2

20L給油ノズル



C-5

20L給油ノズルセット



C-3

10L給油ノズル



C-6

YSK 矢澤産業株式会社
〒399-3202 長野県下伊那郡豊丘村神稻9180番地
TEL<0265>35-7633 FAX<0265>35-7634
※本製品の仕様及び装備・カラー等は改良の為、予告なく変更する場合があります。
予めご了承ください。
裏面も必ずお読みください

ガソリン(軽油など)の保管と取扱いの注意事項

I ガソリン携帯缶に給油するとき

- 1 給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に損傷、内部に錆・異常等がないか確認してください。

※内部が錆びている場合は使用を中止してください。



- 2 従業員のいる通常のガソリンスタンドで給油してください。

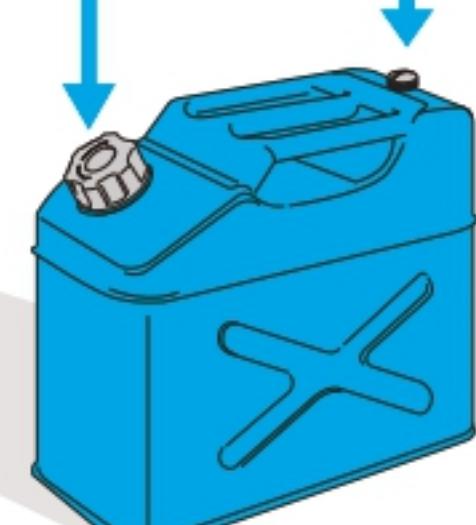
※静電気にはご注意ください。



警告 セルフスタンドでは給油することができません。法律で禁止されています。

- 3 給油後は、キャップ・エア調整ネジをしっかりとしめて、もれがないか確認してください。

しっかりとしめる

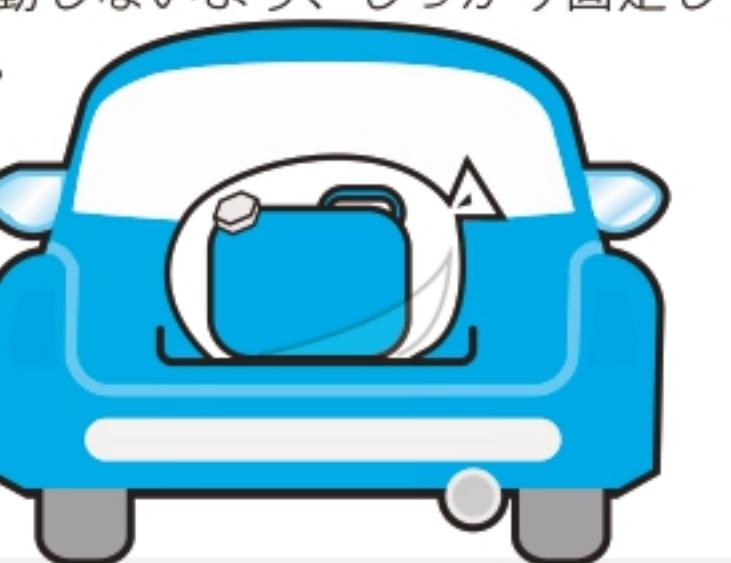


注意 給油量は、規定容量以内で給油してください。

注意 給油後は、中に何が入っているか誰が見ても判るように、付属のシール(ガソリン・軽油・灯油等)を目立つところに貼ってください。

II 運搬または、運搬後保管するとき

- 1 車載して運搬する場合は、必ずポリ袋に入れ、トレイ等の上に載せてください。
※荷室内で移動しないよう、しっかり固定してください。



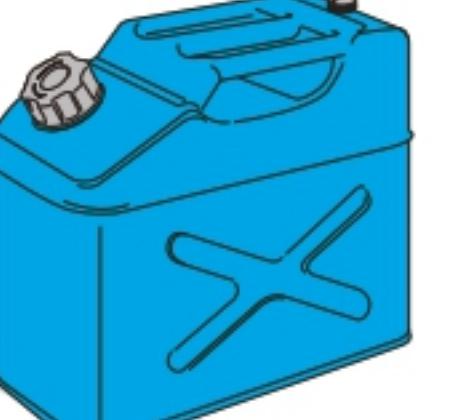
- 2 安全で、傾きのない平らな場所で保管してください。



警告 直射日光が当たる場所・高温になる場所・雨雪が当たる場所・湿気の多い場所等はガソリンの揮発や缶本体の錆等につながり大変危険ですのでお避けください。

- 3 ガソリンは揮発性が高い為、内圧の変化でガソリン携帯缶が変形・亀裂する恐れがあります。適時エア調整ネジをゆるめ、圧力を調整してください。
※圧力調整時も火気厳禁です。

ゆっくりと圧力を調整



長期保管しないでください

- ガソリンも劣化します。
長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を及ぼす恐れがありますので使用しないでください。
- ガソリンにも水分が含まれています。
長期保管をするとガソリン携帯缶の錆の要因になります。錆びている場合は、使用を中止してください。



III ガソリン携帯缶から車や発電機等に給油するとき (ウエス、手袋を準備しましょう)

- 1 ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。

エンジン
ストップ



- 2 傾きのない平らな地面に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。



警告 内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。

- 3 ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかりとしめてください。
こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。

※万が一の為、手袋等をはめることをおすすめします。

※誤ってガソリン等が皮膚に付いた場合は、直ちに石鹼等で十分に洗浄しましょう。



給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。

- ガソリン携帯缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ネジをしっかりと確実にしめてください。
※空の状態で保管する場合はパッキン劣化を防ぐ為、少しキャップをゆるめてください。



ガソリン携帯缶の安全で正しい使い方

- 1 灯油用ポリ容器にガソリンを入れてはいけません。



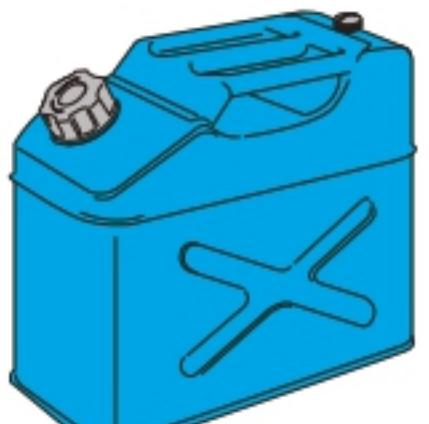
ガソリン容器(携帯缶)は、消防法により金属製容器であることなどの規格が定められており、ガソリン用として性能試験をクリアした容器のみ使用可能です。

- 2 ガソリンは -40°Cでも気化し、引火、爆発の危険性があります。



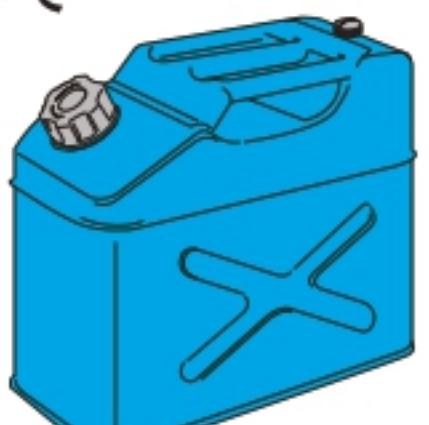
ガソリンはマイナス40度でも気化する性質があるため、一定期間の保管や、乗用車の室内やトランクに積んで搬送する場合は窓を開け換気して運転しましょう。

- 3 セルフガソリンスタンドでは利用客が自らガソリンを容器へ詰め替えることはできません。



セルフ方式の場合は従業員に依頼する、もしくはセルフ方式以外のガソリンスタンドにて購入してください。

- 4 ガソリンの容器への詰め替えや保管時の注意、取扱いについて



ガソリンは引火性が極めて高い物質であり、取扱いを誤ると非常に危険です。ガソリン詰め替え、保管時には容器製品の「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。